



277号
2022/10

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



砂糖きびジュース：「甘蔗先生(青木昆陽)」のいわれもあって「甘蔗」はサツマイモと思ったが、漢語では砂糖きびのことらしい。台湾西海岸の古い港町「ルーガン」で見かけた新鮮「甘蔗スタンド」。砂糖きびの搾りカスが大量に排出されて、ジュースはおいしそう。コップに入れたものを味わうと、優しい三温糖のような味がした。

(台湾・彰化県鹿港^{lù gǎng}[ルーガン])にて 2018年10月 撮影：佐々木健之

‘わんりい’ 2022年10月号の目次は20ページにあります

今月の四字成語は「一字千金」、意味はよく分かりますが、実生活ではあまり使わない言葉ですね。

・>・>・>・>・>・>

秦の国に呂不韋^{りふゐ}という宰相がいました。彼は始皇帝を助けて多くの業績を上げましたが、朝廷で働く人々の間では不人気で、そのことが彼を悩ませていました。ある人が彼に知恵を授けて、立派な書物を作ればみんなから尊敬されるだろうと言いました。その考えを良しとした呂不韋は、3000人と言われる彼の門下の食客（知識、見識の優れた人々を客人としてもてなし、時にはその知恵を借りる当時のしきたり）に依頼して、「呂氏春秋」という立派な書物を完成させました

呂不韋は完成した書物を公示して、「一字でも余分な、或いは不足する文字を指摘することが出来れば、その字数に応じて一字に付き千金を与える」とのお触れを出しました。

一人の秀才（朝廷の採用試験受験資格者）が、その本を隅から隅まで読み通しましたが、一か所の訂正箇所も、一字の間違ひも見つけることはできませんでした。この故事を踏まえて、非常に優れた詩文を「一字千金（一字が千金に値する）」というようになりました。

・>・>・>・>・>・>

言葉の意味：本来の意味は、上記の話でも分かるように、「既成の文章を一字改良したら褒美として千金を与える」と云う意味ですが、後に優れた書道作品を賞賛する言葉になりました。

使い方：彼の書は一字千金と言われて珍重されるので、所有者は皆、大切にしている。

・>・>・>・>・>・>

呂不韋という人物が秦の富国強兵に力を発揮し

たとへは聞いていましたが、秦国内で不人気だったとは知りませんでした。呂不韋は豊かな商人で、戦国時代の各国を相手に商売をして巨万の富を築きました。彼が趙の国で、秦国からの人質として滞在していた異人（後の子楚^{そしゅうおう}・荘襄王）を見かけて「これ奇貨なり。居くべし。」と言ったというお話は有名です。



挿絵：満柏画伯

その後、呂不韋が策を巡らせて、子楚は秦の皇太子となり、国王となったことは周知の事です。始皇帝は呂不韋の実子ではないか、といううわさ話は当時から言われていて、史記に取り上げられたことで、今も真実が分からない謎として伝わっていますが、これも呂不韋が商人で、当時の士大夫から見下されていたせいかもしれませんね。

戦国時代には、有力者が自分を頼って来た有能な人材を屋敷に住まわせて世話をする「食客」の制度が盛んでした。食客の話では、斉の孟嘗君が抱えた食客の「鶏鳴狗盗」の話が有名ですね。孟嘗君はコソ泥や鶏の鳴きまねが上手な者まで抱えていて、彼らのお陰で危機を脱するお話です。呂不韋も孟嘗君に負けず、多くの人材を抱えていたので彼らにこの「呂氏春秋」を作らせ、推敲を重ねて立派な書物を作り上げました。

彼は完成した本を市中に掲げて、「1字でも訂正できるものがいれば千金の褒美を与える」とのお触れを出し、書物への自信を示しました。自分を侮る人々を見返したい意思の表れでしょうか。

ところでこの「呂氏春秋」、書名は早くから聞いていましたが、読んだことはなくて、「春秋」という書名から、歴史書だとばかり思っていました。これが百科事典のような書物だったとは、つい最近知り、密かに赤面しました。

温庭筠の〈詞〉菩薩蛮

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

おんていじん

温庭筠は晩唐を代表する詩人です。繊細かつ華麗な詩風は李商隠に通ずるものがあり〈温李〉と並び称されることもあります。詩よりもむしろ（詞）を得意としていて、「花間ツの鼻祖かかん」とも呼ばれています。「花間びそ」とは唐滅亡後、後蜀ちようすうその趙崇祖の編纂した『花間集』のことで、〈詞〉の総集としては史上最初のもので、

500首の作品が採録されていますが、その中核をなしているのが温庭筠であることからこのように呼ばれています。「花間」とは女性をイメージする言葉で、多くは女性美とその哀感を歌い上げたものです。

（詞）はもともと妓女たちの遊芸から始まったとされています。唐代に辺境の地から伝わったエキゾチックなメロディーに歌詞を充てはめたもので、日本で言えば民謡や小唄の類に似たものでしたが、唐代末期ごろには独自の芸能として大流行し、宋代以後その歌詞の部分が「詩とは異なるもう一つの文芸」として確立しました。抒情性を重んじる点では日本の和歌と共通する所があります。

「菩薩蛮」とは楽曲の名称であって〈詞牌〉と呼ばれます。歌詞の内容とは関係ありません。作者は同じ題名の作品を14首残していますが、これはその中の一首です。

pú sà mán wēn tíng yùn
菩薩蛮 温庭筠

yù lóu míng yuè cháng xiāng yì
玉楼明月长相忆

liǔ sī niǎo nuó chūn wú lì
柳丝袅娜春无力

mén wài cǎo qī qī
门外草萋萋

sòng jūn wén mǎ sī
送君闻马嘶

huà luó jīn fěi cuì
画罗金翡翠

xiāng zhú xiāo chéng lèi
香烛销成泪

huā luò zǐ guī tí
花老子规啼

lǜ chuāng cán mèng mí
绿窗残梦迷

- * 玉楼=立派な楼閣。妓楼の美称としても使われる。
- * 长相忆=いつまでも思い続ける。変わらぬ愛慕の情。
- * 柳丝=糸状に垂れた柳。柳は別れを暗示する言葉としても使われる。
- * 袅娜=柳の枝のたおやかな様。美しい女性を暗示する言葉。
- * 春无力=春の柳の風情を表わす言葉。同時に女性の美しさを暗示している。
- * 草萋萋=春草が生い茂る様。旅立ったまま帰らぬ男子を暗示する言葉。（『楚辞』招隠子「王孫遊びて帰らず。春草生じて萋萋たり」を踏まえる）
- * 画罗=刺繍を施した帳。
- * 金翡翠=金色のカワセミの模様をあしらった刺繍。
- * 香烛销成泪=蠟燭の灯りが燃え尽き、溶けた蠟が涙のように垂れた様。恋人が去った後、毎夜泣き明かしたことを暗示している。
- * 子规=ホトトギス。空しく過ぎ去っていく青春を暗示する言葉。
- * 绿窗=女性の居室。閨房。

〔訓読〕

ぼ さつ ばん
菩薩蛮

ぎよくろうめいげつ あいおも
玉楼明月長く相憶う

りゆうしじょうだ
柳糸袅娜として春に力なし

くさせいせい
門外に草萋萋たり

君を送りて馬の嘶く

がら きん ひすい
画羅には金の翡翠

こうしよくつ
香燭銷きて涙と成る

ほととぎす
花落ちて子規啼き

りよくそう ざん む まよ
緑窓に残夢は迷う

〔和訳〕

高殿に昇れる月に君思う

はるかぜ たわ
春風に撓みてなびく糸柳

君の門出を送りし朝の

いなな
草原に馬の嘶く

きんしゅう ひすい とぼり
金綉の翡翠の帳

蠟尽きて垂るは涙

な
花落ちて啼くホトトギス

空房に迷う過ぎにし日々の夢

作品の細やかで暗示性に富んだ表現だけから見ると、この作者の性格は優しく柔軟そうに見えますが、実際は権威に屈しない誇り高く剛直な性格だったようです。

そのせいで有力者から疎まれ、科挙に及第することもなく、天賦の才を持ちながら低い官職に甘んじ、不遇のうちに生涯を終えています。

〈詞〉に限らず、別れの悲しみを女性の立場から詠んだ詩を〈閨怨詩〉といますが、作者の多くは男性でした。温庭筠もその例にもれません。

美貌と才気に恵まれながら幸せをつかむことの出来なかった女性の姿を、温庭筠は生涯を通して描き続けましたが、その耽美主義的な手法もさることながら、彼をそうさせたのは、これらの女性像に自分の姿を投影していたからなのでしょう。



温庭筠：『晚笑堂竹莊畫傳』より
(ウィキペディアから)

李商隱の『夢沢』

報告:花岡風子

今回は李商隱の『夢沢』と題する詩でした。

李商隱は晩唐の詩人です。杜牧と並んで〈小李杜〉(小型の李白・杜甫)とも呼ばれますが、難解な詩が多いということもあって、日本では杜牧ほどには読まれません。生まれは唐王朝につながる由緒ある家柄の人でしたが、幼い頃に父を亡くし、母親の実家で色々な差別を受けて育ったそうです。しかし、きっと神童級に優秀な人だったのでしょう。当時有力な官僚で著名な文章家でもあった令狐楚に文才を認められ、26歳の時に科挙の進士科に合格します。しかし、合格の喜びも束の間、同じ年に令狐楚が亡くなり、出世の道が閉ざされてしまいます。

その後、李商隱は反対党の王茂元の娘婿となつて、茂元のもとに移つたために、令狐楚の息子の令狐綯から憎まれ、世間からも節操がないと疎まれることになります。しかも、王茂元も程なくして亡くなってしまい、その後の李商隱は不遇な人生を送つたそうです。

この背景には唐王朝の官僚世界を二分する激しい派閥抗争がありました。一つは牛僧孺をトップとする科挙合格者たち、もう一つは李徳裕をトップとする旧来貴族たちの派閥で、両者の確執は「牛李の党争」として歴史に残っています。李商隱が始めに配下に加わつた令狐氏は、牛僧孺派に属していて、後に舅となつた王茂元は李徳裕派に属していたのです。ですから、839年王茂元の働きかけで、文人官僚として最も理想的といわれる秘書省の校書郎に任命されたものの、牛僧孺の派閥から「忘恩の徒」「変節漢」と激しく謗られることになったのでした。当時、唐王朝の官僚という狭い世界で、李商隱の取つたこの行動は、かなり大きな波紋を呼ぶスキャンダルだったことは想像に難くありません。

これだけの情報だと、世間的には節操がないと言われても仕方ないかな、と思えなくもないのですが、植田先生が最後におっしゃつた「科挙の試験も色々インチキがあつたようなんです。令狐楚の息子

令狐綯は、自分より頭は良くないのに、自分より早く科挙の試験に合格していたのも、李商隱にとっては面白くなかつたでしょうね」というお話を聞いて、彼の複雑な人生に同情したい気持ちになりました。幼い頃から環境に恵まれず、自分の才能だけを頼りに生きてきた、頭脳明晰で仕事もできる彼は、それだけに足を引張られたり、嫉妬されたりすることも多かつたでしょう。令狐綯の所から去らざるを得ない、言うに言われぬ事情もあつたのではないかと思います。李商隱の詩は「疎外感に基づく沈鬱な憂鬱をうたつた」と評されますが、彼の物心ついてから45歳までの短い人生の大半は沈鬱な憂鬱そのものではなかつたでしょうか。こういう経験を李商隱は詩に書いていません。書きたくても書けなかつたのではないのでしょうか。彼の作品の奥底には非常に抑圧され、屈折した感情があつたように感じられます。李商隱の詩を少しでも理解するには、彼の人生経験と当時の社会情勢という背景に踏み込んで初めて見えてくるものがあるのではないかと思います。では、今回の作品「夢沢」を見てみましょう。

mèng zé lǐ shāng yǐn
夢 沢 李 商 隱

mèng zé bēi fēng dòng bái máo
夢 沢 悲 風 動 白 茅
chǔ wáng zàng jìn mǎn chéng jiāo
楚 王 葬 尽 滿 城 嬌
wèi zhī gē wǔ néng duō shǎo
未 知 歌 舞 能 多 少
xū jiǎn gōng chú wéi xì yāo
虛 減 宮 厨 為 細 腰

ぼうたく ひふうはくぼう
夢沢の悲風白茅を動かし

そうじん きょう
楚王葬尽す満城の嬌

いくばく
未だ知らず歌舞の能く多少ぞ

きゅうちゅう さいよう
虚しく宮厨を減じて細腰と為るを

意味を見てみましょう。

■一句目

『夢沢』とは、^{うんぼう}雲夢の^{たく}沢とも言い、長江のほとり、かつて洞庭湖の西方にあった広大な沼地のことです。果てしなく広がる沼地に秋風が吹いて、茅をザワザワと揺れ動かしている、という寒々しい風景で始まります。まるで悲劇の序曲を思わせる出だしです。

■二句目

『楚王』とは、楚の^{れいおう}靈王のことを指します。この王様は腰の細い女性が好みだったようで、宮女たちは寵愛を受けようとこぞってダイエットに勤しんだのです。その結果、靈王は昔、城いっばいにいた美女たちをことごとく死なせてしまった。『嬌』とは美女たちのことです。

■三句目と四句目

このようにして死んでいった女性達がどれほどいたことか。ここで言う『歌舞』とは歌舞にたけた後宮の女性たちという意味です。

『宮厨』とは、宮女たちに出された食事のことです。果たして、どれだけの美女が食事を食べない過度なダイエットをして、“細い腰”になったことだろう、と言っています。『細腰』は多くの場合美女を表しますが、ここには悲劇的な要素が込められています。

・▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁▷◁

美人の基準は時代によって違いますね。盛唐の時期は楊貴妃に代表されるような、ふくよかな女性もてはやされたようですが、それ以外の時代は、細い女性が好まれたようです。その中でも靈王は極端にスリムな女性を好んだようです。細い美人といえば、前漢の成帝の皇后にまで上り詰めた趙飛燕がいます。鳥のように舞う小さくて細い美女だったようです。李白の詩にも登場し、日本でも『超飛燕外伝』が翻訳されてその名が知られることになりました。中国でもドラマがあったりします。しかし、後宮に集められた美女のうち殆どが一度も皇帝に見えることなく亡くなったと言いますから、今だと考えられない犯罪行為だと思います。そんな中、皇帝に気に入られようと必死でダイエットした結果、多くの宮女たちが次々と亡くなったとは、聞くだけで悲惨な話です

ね。後宮とか宮女を想像するたび、現代の一女性である私は人間の欲望の悲しさを感じてしまいます。

さて、この詩を読んだ李商隱は一体どういう気持ちだったのでしょうか。唐の時代を生きた李商隱がわざわざ春秋戦国時代の愚かな楚王のを持ち出して「罪なことをしたもんだ」という詩を書いたのは何故だったのでしょうか？

一読すると、この詩からは女性に対する同情的な目線を感じる事が出来ます。男尊女卑がまかり通っていた時代のエリート官僚としては珍しい視点かと思えます。幼い頃父が亡くなり、母の手で育てられた李商隱でしたから、女性への理不尽な運命や制度をことさら痛々しく感じたのかも知れません。かつてご紹介した『夜雨寄北』という詩も、パートナーが傍になくて寂しいという気持ちを詠んでいました。男性の詩としては珍しいので、非常に印象に残っていました。植田先生も「李商隱の女性観は？ という視点で見るといいですね」と仰います。また別の観点から、歴史故事にかこつけて、社会批判をしているとも言えます。「李商隱は直接社会を批判する詩は書いていませんが、どこかにもやっとしたものがありますねえ。一見女性に同情しているようで、どこか世間を斜めから冷ややかな目で観察しているようなところがある」と植田先生。

さて、李商隱と言えば、^{だっさい}獺祭詩人としても後世に名を残しています。『獺祭』とは^{かわうそ}獺の祭壇という意味で、カワウソは捕った魚を川岸に並べる習性があり、そのイメージから自らつけたあだ名だそうです。華麗な文体でも有名ですが、当時自分の書齋を持ち、部屋いっばいに書物を広げて、古文の中から、自らの心に響く文をあれこれと読み漁っているひと時は、孤独な李商隱にとって最も心満たされる時間ではなかったのだろうかと思っています。そういえば正岡^{だっさいしよおく}子規もこれにあやかって自分の書齋を獺祭書屋と称していたそうですね。

今回、李商隱の生きた短くも複雑な人生を知ること、山のように理不尽な想いを抱え込んで死んでいったかつての天才の悲しい運命と、その作風を『夢沢』と共にしみじみ感じる事が出来ました。

「食」の思い出

文と写真＝村上直樹

この「雑感」では、これまで、鄭州の棗製品、開封の麻辣花生(2021年6月号)、あるいは洛陽の「水席」料理(牡丹燕菜)(2022年6月号)など、河南省の食品・料理を紹介した。今回は、あらためて、私自身の河南省における「食」の思い出に、インターネット情報等を合わせて話題にしたいと思う。

まずはじめは、河南省(開封)を最初に訪れた2005年秋の思い出である。9月15日に知人に連れられて、開封の郊外を流れる黄河を見に行った(黄河旅遊区)。広々としていたが、聞いていたように、やはり、砂地が大きく、河の水は少ない印象であった。

この水上レストランで「黄河鯉魚」の煮つけを食べた。ものの本によると、中国には400以上の種類の鯉がおり、広東の团鯉、広西の三角鯉、黒竜江の鏡泊鯉、江西の紅鯉などが有名であるが、中でも、黄河鯉魚は筆頭だそうである。見た目が優美であるだけでなく、栄養満点である(開封市旅遊管理委員会編『開封旅遊大観』中国県鎮年鑑社、2001年)。その調理の仕方にも特徴があり、客の求めに応じて半分はでんぷんをまぶして揚げ(焦炸)、半分は甘酢あんかけ(糖酢熗)として、一匹の魚で2種類の味を楽しむ(一魚兩喫)こともできる。

この時、生簀からすくい立ての黄河鯉にどちらの味を頼んだか、あるいは両方だったか、残念ながら思い出せない(写真を見ると、1種類だったようである)。実は、この日のメニューで忘れられないのは、写真上の卵とネギの炒め物である。卵はまさに放し



「烩麵」(『喬姐聊美食』より)

飼いの鶏によるもので、この簡単な料理の味は絶品だった。よく料理の味(の印象)はそれを食べた場所(環境)によって変わると言われる。確かに広々とした黄河を前に、食べた訳だが、この炒め物は、どこで出されても、たとえば、東京の「高級」中華料理店で出されても、感激するはずである。

さて、河南省は小麦の一大産地である。そこで小麦製の食品、とくに麺類が好んで食べられている。その代表が「烩麵」である。これは一般に羊肉の濃厚なスープに、麵のほか、姜、香菜、葱花、豆腐皮(湯葉)、海帶絲(千切り昆布)、菠菜(ほうれん草)が入っている(写真参照)。スープの味もさることながら、河南産の小麦を使った平たい形状の手作り麵の食感も格別である。

開封市内の商業施設「開元広場」に出店していた有名チェーン店「蕭記三鮮烩麵美食城」には何度か食べに行った。因みに、2016年3月7日に行った時は、羊肉烩麵の小碗(「小」とあるが、日本の標準では「並み」サイズ)で、13元であった。庶民の味方であることがわかる。ただし、残念ながら、この「雑感」を書くためにインターネットで検索しても、この開封店の存在は確認できなかった。そこからは撤退したのかもしれない。

他で、私がお薦めしたいのは2016年8月に鄭州駅



「黄河鯉魚」の煮つけほか(2005年9月筆者撮影)

近くの「粵海酒店」に泊まった際、1人で行ったことがある「八一八烩麵」という店である。全く庶民的なレストランで、味は大変良かった。こちらはインターネットで確認すると、今でも健在のようで安心した。

烩麵については「河南人是有多愛喫麵条？ 盤点河南七種名麵，你喫過哪些？」（河南人はどれほど麵が好きなのでしょう？ 河南の7種の名物麵はこれです。あなたはどれを食べたことがありますか？）『喬姐聊美食』（2022年4月26日）というインターネット記事でも、北京炸醬麵、湖北熱乾麵、四川担担麵、山西刀削麵と並んで中国の五大麵の誉れ高い、とあった。

なお、同記事で紹介されている他の6つの麵は、「鹵麵」、「饅饅麵」、「板麵」、「炆鍋麵」、「糊涂麵」、「爛麵」である。写真を見ると、「爛麵（焼きそば風麵）」など、私も河南省のどこかで食べている気がする。ただし、「烩麵」とは違って、河南省以外の地域でも好まれている、あるいは他の地域が発祥の麵もある。たとえば「爛麵」は閩菜（福建料理）の定番らしい。それにしても、5番目の「糊涂麵」とは変わった名前である。「糊涂」は方言で糊状の食べ物を指すようだが、辞書には「めちゃくちゃである」ともあり、どんなものか、ぜひ、それと意識して食べてみたいと思わせる。

河南省の名物として次に紹介したいのは、「**胡辣湯**」というスープである。おそらく日本では、ほとんど知られていないと思われるが、河南省に行くと、とくに朝食時のメニューとして、必ず用意されている。その名のとおり、胡椒と唐辛子で味付けられた牛肉の出し汁のスープに、牛肉、小麦粉の生地、海藻など、さまざまな具が入っており、身体の芯から温まる気分になる。好みに応じて酢を入れて食べる人も多い。

河南省ではごく当たり前の「胡辣湯」ではあるが、中国国内でも、少なくとも南方では、よく食べられているとは言えないようである。インターネット上では、ごく最近も、その理由を示した「風靡河南的“胡辣湯”、为啥在南方火不起来？ 背後3个原因太现实」（人気の河南「胡辣湯」、なぜ南方では火がつかないのか？ その背後にある3つの原因が余りにリアル）『小談食刻』（2022年9月3日）という記事が出ていた。

この記事によると、まず、その原因は味にあるのではない。その上で、まず1つ目の原因は、要するに、

南方には麵やビーフンの他、ワンタン、肉まん、（中国の）煎餅など、伝統的な朝食がさまざまあり、たとえば「胡辣湯」に特徴があるとしても、それらを押しつけるのは難しいということである。

2番目は、値段が高すぎるという理由である。現在、南方では「胡辣湯」は1杯、10元以上するそうである。朝食とは言え、1杯分で足りず（この点は、私も同意する）、2杯で20元以上となる。南方では20元もあれば軽食店で十分な朝食がとれるらしい。

3番目の理由は、業界による製品の標準化と地元自治体の後押しが欠けているというものである。河南省の各地に「胡辣湯」があつて、味もさまざまであり、標準化された決定版がない（周口市西華県逍遙鎮の「逍遙胡辣湯」はブランドではあるが）。そもそも、河南人は「重農抑商（農業を重んじ、ビジネスを抑える）」の発想があり、地元名物を広めようという意識が弱いらしい。いささか、身も蓋もない理由である。

ところで、この記事で地元業界・自治体が一体となって売り込みを図った成功例として、広西省柳州の「螺螄粉（タニシ・ビーフン麵）」が挙げられていた。私は、この「螺螄粉」の袋入り製品を最近、日本から友人からもらって初めて食べた。

これは、タニシなどで作ったスープに、ゆでたビーフン、タケノコの漬物などが入っており、強い酸味と辛味が特徴である。くせのある臭いがあると言われるが、私は気にならず、さすが評判どおり、美味しかった。この麵食はもともと、柳州の地元の小喫（軽食）であったが、2014年以来、業界全体で袋入りインスタント食品として、標準化、生産自動化を進め、一大ブランドに育てた。

最新情報によると、現在、柳州市内には127社の生産企業があり、2021年の市全体の袋入り「螺螄粉」の売上高は151.97億元（約3178億円：1元=20.91円）に上るそうである。代表的なブランドの1つが、私が友人からもらった「螺螄王」である。中国国内に止まらず、越境ECの発展とともに、20以上の国・地域にも輸出されており、人気を博している（2020年6月15日付『東方網』、2022年9月9日付『人民日報（海外版）』）。河南省の「胡辣湯」もかなり以前から袋入りインスタント製品となっているが、「螺螄粉」を見習うことで、いつの日か国際的な知名度も上がるのか、楽しみである。（続く）

中国の面白い神話物語・伝奇物語（18）－古鏡記（1）－

顧傑

皆様、お久しぶりです。

今回は、隋・唐の時代には珍しい、一人称で語られる伝奇物語を紹介したいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷

唐朝の前には、隋朝の時代があった。魏晉南北朝時代の混乱を鎮め、西晋が滅んだ後分裂していた中国をおよそ 300 年ぶりに再統一したのが隋朝である。隋は建国したけれど、第 2 代皇帝煬帝の失政により滅亡した。しかし隋は、短い治世の間に、大きな運河を建設し、中国の経済発展、南北交流を促進して、そのあとの唐の繁栄のための礎を築いた。

私は今回、この隋末期に経験した奇妙な出来事をお話するつもりだ。

隋の末期に侯生という名の男がいた。彼は高潔で尊敬される学者だった。私は彼を師と仰ぎ尊敬していた。彼は亡くなる前に、私に古い鏡をくれた。

「この鏡を持って
いる人は、邪悪や外道などからの危害を免れることが出来る」と侯生は最後の最後に、私に言った。

私は彼がくれた鏡を受け取り、宝物のように大事にしていた。

鏡は直径 8 寸程で、鏡の柄にはしゃがむ麒麟が彫られており、鏡の柄の周りには亀、龍、鳳凰、虎が一定の順番で並べられている。鏡の縁には八卦があり、その外に十二の星が飾られている;十二星に対応しているのは十二の干支;さらにそのほかには二十四の文字がある。古代の文字らしいが、どんな辞書にも載っていなかった。

侯生は、鏡をくれた時、こう言った：

「この二十四の文字は二十四節気に対応してい

るのだ」

太陽の下で鏡を見ると、裏側の彫刻や文字がそのまま鏡に映し出されている。

鏡を叩くと、きれいな音が響き、その余韻は長く残り、半日でも消えることはなかった。

嗚呼、この鏡は、普通の鏡とは比べることができない、素晴らしいものだ！最初にこの鏡を持っていた人は、仙人に違いないだろう。

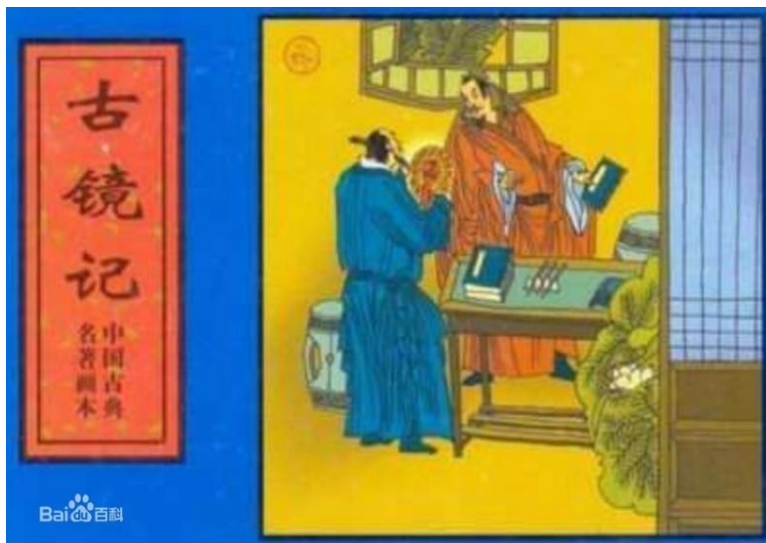
侯生の話によると、古代黄帝は 15 個の鏡を作り、最初の一つの直径は一尺五寸で、15 の鏡の直径は 1 寸ずつの違いがある。侯生がくれた鏡は 8

個目に当たるものだそうだ。侯生みたいな賢人がいうことだ、間違いはない。

今や隋王朝の命運も尽きかけ、世の中は混乱して、私の人生もその混乱の中で弄ばれている。楊宝や張公（共に唐代伝奇の主人公。後刻、それぞれの物語も紹介予定）のように波乱万丈の運命が私を待ち構えているのではないかと不安を覚える。楊宝は玉環を得て、巨万の富を後世に残したが、張公は宝剣を失って、命も落としてしまった。やることなすことうまくいかない私の人生は、この先私をどこに運んで行くのだろうか。

私は譲られた宝鏡も失ってしまった。返す返すも残念で腹立たしいことだが致し方ない。せめて、貴重な鏡にまつわる逸話や不思議な出来事を一つ一つ記録して、後世の人々がこの鏡のことを理解出来るようにしようと思う。千年後、この貴重な鏡を手に入れた人は、この鏡が珍しいものであることを知るであろう。

隋煬帝七年五月、私は検事職を辞して、故郷の



「古鏡記」表紙（天津美術出版社 2002 年）（百度百科から）

河東に戻って恩師・侯生の故郷を訪ねたが、そこで出くわしたのは恩師の葬儀だった。侯生の生前の指示により、鏡は私に与えられ、思いがけず貴重な鏡を持って家に帰ることになったのだ。

六月、私は長安に戻り、長樂坡(地名)に到着し、程雄という人が運営している宿に泊まることにした。程雄は最近、客から一時預かって欲しいといわれ女子を雇っていた。名前は鸚鵡おうむと云った。私は落ち着いてから、荷物を整理しようと、鏡を取り出し、靴と帽子を並べていた。すると、鸚鵡が遠くから私を見て、すぐに「もう致しません、ご勘弁を！」と言いながら頭を地面に激しく打ち付けて、顔が血まみれになってしまった。

私は程雄にこの女子の事情を聴くと、程雄が由来を話してくれた。

「二年前、東の方からのお客様がこの女子を連れて来まして、『しばらく預かってほしい』と言って消えてしまい、そのあともう二度と戻ってきませんでした」

私はこの女子は邪鬼と思い、鏡をもって近づこうとすると、その女子は

「命だけは助けてください！ すぐに元の姿に戻りますから…！」と懇願してきた。

私は鏡を隠し、「おまえの素性を教えなさい、それから元の姿に戻っても遅くはあるまい。そうすれば、命を助けてやってもいい」と言った。

女子は何回か感謝した後、自分のことを話し出した：

「私は華山の山寺前にある古い大木から生まれた千歳の狐です。姿を変えて色々な人を誘惑して悪事を重ねてきましたので、罪は死に値します。そうこうするうちに山の神々の怒りを買って黄河、濰水付近に逃げて来ました。そこで、陳思功という人の義理の娘になりました。陳思功の妻の鄭は非常にいい人で、同郷の人との結婚を世話してくれました。しかしその人とは縁がなかったため、東へ逃げようとしたのですが、旅行者の李无傲に捕まりました。李无傲は乱暴な男で、何年も無理やり付き合わされ、逃げる事が出来ませんでした。2年前に彼と一緒にここに来ましたが、捨てられてここで暮らしていました。思いがけず天宝鏡に遭遇し、本性を表すことになってしまいました」

私は再び彼女に言った

「古い狐が人間に化けて、人を傷つけることを沢山したのか？」

「人にばけても、おとなしく人に仕えていれば何も悪くはありません。ただ、いろいろな事情があり、人を騙したり惑わしたりしたので、神々の怒りがかっているのです。当然死刑を宣告されるでしょう」

私はそれを聞いて、「お前を解放してやろうと思うが、可能だろうか？」と訊いた。

女子はそれを聞いて「有難うございます。あなた様のお優しいお気持ち、ご親切は忘れません。しかし、一度鏡の輝きを浴びてしまったら、私はもう元の姿に戻るしかなく、罪から逃れることはできません。

私は長年姿を変えて悪いことをし続けてきたので、鏡に映る自分の姿を見て本当に恥ずかしく思います。お願いします。鏡を箱に戻して、私が死ぬまで此の儘の姿でいさせてください」と言った。

「鏡を箱に入れたら、すぐ逃げ出すのか？」

女子は苦笑いしながら言った：

「あなたはたった今私を生かしてくれると約束してくださいました。鏡をしまって、私を逃がすのはあなたのご希望ではありませんか？ しかし、一度鏡に映した身、もう逃げることはできないでしょう。ただ最後の喜びを享受できるように、少しの間だけこのままの姿でいただけです」

私は女子の話聞いて、すぐに鏡を箱の中に片付け、女子のために料理と酒を頼んだ。

女子は舞いながら歌いはじめた：

「鏡よ！ わが命は悲しい哉！ 今までどんな姿で何度逃げ続けたことだろう…しかし生きるのは嬉しいが、死もまた悪いことではない。この世のどこに未練があるというのだ？ 今となっては、この世を見守る意味もなかりょう！」

歌い終わると、何度も何度もお辞儀をして、老いたキツネの姿となって亡くなった。

周りの人たちはみんな驚いた。

÷÷÷÷÷÷÷÷

今回の作品は、唐になる前の、隋の末期に作られたものです。乱世の中、作者は奇怪物語を語りながら、自分自身の人生観を吐露し、世情を描き出しているのでしょう。

それでは、また次回お会いしましょう。

前回(7月号)からの続きです。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」にある、**日:中**記号が付いた語を取り上げています。この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしています。

【前后 qiánhòu】 1.(ある時間の)前後. 春节前后 chūnjié qiánhòu/旧正月のころ. 2.(時間的に)始めから終わりまで、全期間. 她前后来过四次 tā qiánhòu lái guosì/彼女は全部で4回来たことがある. 3.(あるものの)前後. 前と後ろ. 车站前后各有两个出入口 chēzhàn qiánhòu gè yǒu liǎngge chūrùkǒu/駅の前後には出入り口が二つずつある.

“前后”は時間や場所の大体の範囲を表すことができるが、日本語の「前後:ぜんご」の「…ぐらい」の意味に用いることはできない。その場合は“左右 zuǒyòu”を用いる。铅笔三十支左右 qiānbǐ sānshí zhī zuǒyòu/鉛筆30本前後。五米左右 wǔmǐ zuǒyòu/5メートル前後。

“后”は「後」の簡体字です。日本語では「后」の字が「妃:きさき」の意味として使われていますが、中国語では「後ろ」を示す時も「妃」を示す時も“后”の字を使います。しかし、中国人の姓として“后”と“後 hòu”があり、これらは別の姓とされているようです。

【强力 qiánglì】 強力な. 强力纤维 qiánglì xiānwéi/強度の優れた繊維。

“强力”は専門用語として直接、名詞の前に用いることが多く、それ以外の場合は“强有力 qiángyǒuli”“大力 dàlì”などを用いることが多い。强有力的靠山 qiángyǒuli de kàoshān/強力な後ろ盾。大力推行计划 dàlì tuīxíng jìhuà/計画を強力に推進する。

日本語で「強力な…(名詞)」の時は“强有力的…(名詞)”、“強力に…する”の時は“大力…(動詞)”の形で用いるのが良いですね。

【请求 qǐngqiú】 1.頼む. 願う. 申請する. “请 qǐng”よりも硬い表現. 请求上级批准我休一个星期假 qǐngqiú shàngjí bǐzhǔn wǒ xiū yíge xīngqī jià/上役に1週間の休暇を許可してくれるようお願い出る. 2.願い. 申請. 他接受了我的请求 tā jiēshòu le wǒ de qǐngqiú/彼は私の願いを聞き入れた。

日本語の「請求:せいきゅう」に当たる言葉として

は“要求 yāoqiú”“索取 suǒqǔ”などを用いる。索取精神赔偿费 suǒqǔ jīngshén péichángfèi/慰謝料を請求する。向有关部门索取资料 xiàng yǒuguān bùmén suǒqǔ zīliào/関係部門に資料を請求する。

日本語の「請求」は、当然の権利として返して(払って・貸して)くれと求めること…とあるように、強い態度を伴うものですが、“请求”はそうではないようです。

【求人 qiúrén】 人に頼む. 人にすぎる. 人の世話になる. 不要什么事都求人 búyào shénme shì dōu qiúrén/何もかも人に頼んではいけない. 求人不如求己 qiúrén bùrú qiújǐ/人に頼むよりは自分でやったほうがよい. 自分でするのがいちばん確実だ。

日本語の「求人:きゅうじん」は“招聘 zhāopìn”“招人 zhāorén”“招工 zhāogōng”などを用いる。招聘广告 zhāopìn guǎnggào/求人広告。

日本語の「求人」は「(…する)人を求める」ですが、“求人”は「人に(…を)求める」なんですね。

【趣味 qùwèi】 おもしろみ. 興味. 他是一个很有趣的人 tā shì yíge hěn yǒu qùwèi de rén/彼はなかなかおもしろい人だ. 讲的很有趣味 jiǎng de hěn yǒu qùwèi/話がたいへんおもしろい. 趣味无穷 qùwèi wúqióng/興味がつきない。

日本語の「趣味:しゅみ」とはニュアンスが少し異なる。切手集めや音楽・詩作など余技としての「趣味」は“爱好 àihào”を用いることが多い。我爱好集邮 wǒ àihào jíyóu/私の趣味は切手収集です。他除了工作以外, 没有任何爱好 tā chúle gōngzuò yǐwài, méiyǒu rènhe àihào/仕事以外には何の趣味ももたない。ただし、“高雅的趣味 gāoyǎ de qùwèi”(上品な趣味)、“他们趣味相投 tāmen qùwèi xiāngtóu”(彼らは趣味が合う)のように美的感覚や物事を味わう能力をさす場合は意味が重なる。

【任务 rènwu】 1.任務. 仕事. 課題. 学生的任务是努力学习 xuésheng de rènwu shì nǚlǐ xuéxí/学生の仕事は一生懸命に勉強することだ. 2.課せられた仕事の量. 招生任务 zhāoshēng rènwu/学生募集目標(人数)。

“任务”は日本語の「任務:にんむ」にあたるかたいニュアンスから「役目」「仕事」などのやわらかいニュアンスまで幅が広い。在这次联欢会上, 你的任务是说一段相声 zài zhècì liánhuānhuì shàng, nǐ de rènwu shì shuō yíduàn xiāngsheng/今回の交歓会では、君の役目は漫才をひとくんだりやることだ。

“务”は「務」の簡体字です。日本語の「任務」は、義務として与えられた仕事ということで、うまく処理しないとダメだという緊張感がありますが、“任务”は緊張感を伴わない場合もあるのですね。

【若輩 ruòbèi】〈書〉なんじら、君たち、おまえら。

日本語の「若輩：じゃくはい」は、“年轻人 niánqīng rén” “初出茅庐的人 chū chū máolú de rén” “不成熟的人 bù chéngshú de rén” などという。

“若輩”は、“你们 nǐmen” (二人称の複数形)の意の書面語。意外にも、中国語の“若 ruò”には、「君・おまえ」の意味があり、「(年が)若い」の意味はないのですね。同じ発音で、「(年が)若い・若い人」を意味する“弱 ruò”から、日本人が“若”に「(年が)若い」の意味を加えたそうです。それで、「若輩」を「弱輩」とも書くのですね。日本語の「若輩」、最近あまり聞かなくなりましたが、“若”と“弱”の関係がおもしろくて取り上げてみました。

【设计 shèjì】 設計(する). デザイン(する). 案出する. 版面设计 bǎnmiàn shèjì/誌面構成. 誌面のレイアウト. 剧情设计 jùqíng shèjì/劇のストーリーの構成。

“设计”は建築物の設計・図柄のデザイン、また映画や小説の筋などを組み立てることで、使用範囲がかなり広い。设计服装样式 shèjì fúzhuāng yàngshì/服のデザインをする。设计员 shèjì yuán/デザイナー。設計者。根据他的亲身经历设计了小说的情节 gēnjù tā de qīnshēn jīnglì shèjì le xiǎoshuō de qíngjié/彼自身の経験をもとに小説の筋を構想した。

使用範囲が広いということはどういうことです。日本語の「設計：せっけい」を中国語に訳すときは“设计”が使え、中国語の“设计”を日本語に訳すときは、その対象に応じて、「設計」「デザイン」「構想・構成」などに訳し分ける必要があるということです。

【调理 tiáolǐ】 1. 保養する. 她因产后注意调理, 身体恢复得很快 tā yīn chǎn hòu zhùyì tiáolǐ, shēntǐ huīfù de hěn kuài/彼女は産後の保養に気をつけたので肥立ちがたいへんよい。 2. やりくりする. 処理する. 他把十几个人的伙食调理得很好 tā bǎ shí jǐ ge rén de huǒshì tiáolǐ de hěn hǎo/彼は十数人もの食事をたいへんうまくまかなっている。

日本語の「調理：ちょうり」は、“烹调 pēngtiáo” “烹饪 pēngrèn” などを用いる。

7月号で取り上げた“料理 liàolǐ”と同様、“调理 tiáolǐ”も「料理を作る」意はないのですね。ところで、日本語の「料理」と「調理」の違いは何でしょうか。ネットで調べてみると、「料理」は処理したものや方法のこと、「調理」は作業や技術を指すもの…だとか、「料理」は家庭で食べる物を扱う場合、「調理」

はレストランなどプロの手によって施される場合…などの説明がありました。

【通学 tōngxué】 通学する. 通学月票 tōngxué yuèpiào/通学定期券. 通学生 tōngxué shēng/(大学の寮に入らずに)自宅から通学する大学生. “走读生 zǒu dú shēng” の古い言い方。

“通学”は単独で用いることは少なく、上の例のように他の語と結びつく。日本語の「通学：つうがく」は“上学 shàngxué” “走读”がよく用いられる。我坐电车上学 wǒ zuò diànchē shàngxué/私は電車で通学する。我是走读的 wǒ shì zǒudú de/私は(寮に入らず)通学しています。

“走读”ということばは初耳だったので調べてみました。“走读”は「(学校の宿舎に入らないで自宅から)通学する」の意で、“走读生”(通学生)は“住校生 zhùxiào shēng”(寮生)に対して使うことばだそうです。“通学” “走读”は、単に「学校に通う」だけの意味ではないのですね。

今回はここまでしておきます。

「ちょっと気になる中国語」シリーズの記事から、“〇〇族 zú”ということばを見かけたので、少しシェアしたいと思います。以下、「ちょっと気になる中国語」からの引用です。同じようなグループの人を“〇〇族”と、“族”をつけて表すことがあります。その中には、若者たちが使う新しいスラング的な言葉や、流行語になったもの、すでに中国語として定着したものもあります。日常会話や新聞などでも使われる代表的な“〇〇族”のことばを5つ紹介します。皆さんはいくつ知っているでしょうか。

1. 啃老族 kěn lǎo zú “啃”は「かじって食べる」、「老」は「老人、ここでは自分の親」という意味。つまり、いい年になっても親のすねをかじって働かない人たち。
2. 蚁族 yǐ zú “蚁”は「(昆虫の)アリ」を意味し、アリのようまじめに働く人たち。しかし、一生懸命に働いても暮らしが良くならず、狭い集合住宅や団地に、アリのよう暮らししている。
3. 月光族 yuè guāng zú “月”は「一か月」、「光」は「使い果たす」という意味。つまり、毎月の月給を貯金せずに月末までに使い果たしてしまう人たち。
4. 低头族 dī tóu zú 「歩きスマホ」をしている人たち。
5. 快闪族 kuài shǎn zú “快”は「すぐに」、「閃」は「フラッシュをたく」という意味。つまり、思い立ったらすぐに写真を撮り、それを SNS にすぐあげ、拡散する人たち。

「東西の峻厳な二人の革命家」(4)

和田 宏

キリスト教社会主義者の木下尚江は、1886年旧制松本中学校の17歳の頃、ホーソンの著書『伝記物語』の中のクロムウェルの章を読んで、“国王処刑という史実を知った時、恐怖か驚愕か讃嘆か、名状すべくもあらぬ一種の感慨に打たれて、暫し身も魂もこの世ならぬ夢の裡に酔いしれて仕舞った。”と述べている。当時強化されて行く明治天皇制国家の不合理を実感していた木下は、天皇制否定論者となり、我が国最初の普通選挙運動を推進した人物であり、平和主義、民主主義の論陣を張り、廃娼運動、足尾鋇毒問題などで世論を喚起した。

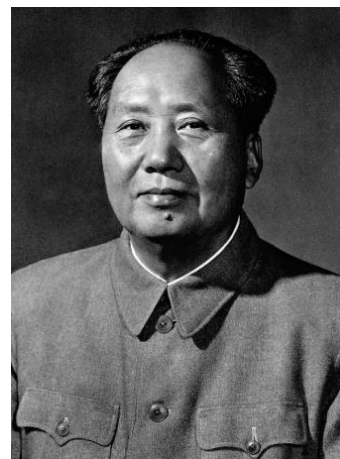
1951年東京大学総長となった矢内原忠雄は、先輩にあたる内村鑑三や黒崎幸吉との交流から無教会主義プロテスタントになり、著書『続・余の尊敬する人物』の中でクロムウェルを取り上げている。クロムウェルほど社会改善のために努力した政治家は少なく、先頭に立って当時の混濁したイギリスの司法制度を整頓し、社会の風紀を改善し、教育を奨励し、宗教界を刷新した功績は大きい。また、クロムウェルの混じりなき強い信仰と鉄腕の実行力とにより、自由の精神は初めて強くイギリスの政治を貫き、その後の歴史に不滅の影響を残した。近代イギリスは、クロムウェルに始まると言って過言でないなどと、厳格なピューリタンとしてのクロムウェルを最大限に評価している。でも、この矢内原の書いた原稿は、戦前は検閲に引っかかって出版出来なかった。クロムウェルについて書かれた本は幾つもあるが、一番判り易く、和田がお勧めするのは東京女子大学の今井宏教授が書いた『クロムウェル～ピューリタン革命の英雄～』である。

<人民の統帥・毛沢東>

『愚公山を移す』

毛沢東(1893~1976)は、旧日本軍と蒋介石軍との内戦を戦い抜くため、“愚公移山”の寓話を引いて、味方陣営を鼓舞したことがある。この寓話は、昔、愚公と言う老人が、自分の家の出入口に二

つの山があって、邪魔だったので鍬(くわ)で掘り崩そうと、おっちら、おっちらやっていたら、智叟という老人がこれを見て、“できっこないよ。”と嘲笑った。しかし愚公は自分が出来なくても子が、子が出来なくても孫が、そして子子孫孫



毛沢東主席(ウィキペディア)

掘り続ければ、山は低くなることはあっても高くなることはない」と答え、少しも動揺しなかった。これに感動した天の神が二人の神仙を下界に送り込んで、二つの山を背負い去らせたというものである。この“愚公移山”の寓話を毛沢東は、1945年6月11日の中国共産党第七次全国代表大会の閉会式の演説の中で用いた。「今、中国人民の頭の上には大きな二つの山が乗っかっている。

一つが『帝国主義(日本帝国の侵略軍)』であり、もう一つが『封建主義(蒋介石の国民党軍やその買弁勢力)』である。中国共産党は、この二つの山を取り除くのだという決意を固めており、休まず続ければ、我々だって天の神を感動させることが出来る。天の神とは他ならぬ全中国の人民大衆である。全国の人民大衆が一斉に立ち上がって我々と一緒に、二つの山を掘り崩せば、必ずや、この二つの山も取り除くことが出来る」(这个上帝不是别人，就是全中国的人民大众。全国人民大众一齐起来和我们一道挖这两座山，有什么挖不平呢?)と。

私は、この“愚公移山”の話が大好きで、大学生の頃から自分のモットーにしている。どんな困難なことやうまく行かないことも、根気強く一步一步進んで行けば目標は近づいて来るのだと自分に言い聞かせている。それともう一つ、ルターが作詞作曲した『神は我がやぐら』が好きで、職場で思う様に行かなかった時など、この歌を口ずさみなが

ら帰宅した。

『三大規律八項注意』

毛沢東は、中国工農紅軍（人民解放軍の前身）の軍規として、1928年『三大規律六項注意』を決めた。その後、幾度かの変遷を経て1947年10月に人民解放軍総司令部が下記の様な『三大規律八項注意』に統一して、訓令として発した。

三大規律は、

- 一つ、一切の行動は指揮に従う。
- 二つ、民家の針一本糸一筋も盗まない。
- 三つ、全ての戦利品は公有にせよ。

八項注意は、

- 一つ、話し方は穏やかに。
- 二つ、売買は公平であれ。
- 三つ、借りたものはきちんと返せ。
- 四つ、壊したものは弁償せよ。
- 五つ、人に暴力を振るったり悪口を言わない。
- 六つ、民衆の農作物を痛めるな。
- 七つ、女性に悪戯しない。
- 八つ、捕虜を虐待しない。

この『三大規律八項注意』の歌を歌いながら進軍を続ける毛沢東の軍隊への支持者が次第に増えて行ったのは言うまでもない。人民解放軍は、戦闘がない時は地元農民と一緒に農作業に勤しんだ。こんな当たり前のことでも、当時は新鮮だった。何故なら戦前の中国では、兵隊はろくでもない人間のなる職業で、軍閥にお金で雇われているからお金次第でいくらでも寝返ってしまうのが普通。戦場になった地域で食料を強奪する、女性に乱暴するなんてことはよくあることだった。だから、一般の中国人には人民解放軍が、“これまでの軍隊とはこりゃ一寸違うぞ。”と映った。

私には、毛沢東の指す『帝国主義』と『封建主義』の二つの山が、クロムウェルにとっての『カソリック』と『それに追従する国王や王党派』に当たり、人民解放軍の『三大規律八項注意』が、クロムウェルの作った『兵士の教理問答』に相当するよう受け取れる。

『文化大革命』

毛沢東は、ごく一握りの地主が人口の95%に当たる小作人（農民）を牛馬のように働かせ搾取していた古い中国社会をひっくり返して、地主の持



毛沢東と江青とその間の一人娘・李訥(1940年8月生れ)

っていた土地を農民達に分け与え、君たち一人ひとりが国家の主人公なんだよと目覚めさせ、1949年10月1日、「中華人民共和国」を成立させた建国の父である。

世界で4番目に広い国土を持ち、56の民族と当時5億5千万人という世界一多い人口を有する中国を解放した毛沢東のような革命家が、東西古今の歴史上、他に居るだろうか！

ところが、新中国が成立後、さほど年月が経っていないのに、権力を握った政治リーダーをはじめ工場長や学校長など、組織の上に立つ者の腐敗が再びはびこり、賄賂が飛び交った。

そこで毛沢東は、『貧しくも平等であった新中国建設時の理想を忘れるな！腐敗した人間を打倒しよう！どんなに地位が高くても恐れる必要はない。“造反有理”だー！』と純真無垢な気持ちを持っている青年達に呼び掛けた。

また、彼は『教室の中で勉強して、机上の空論を交わすばかりが能じゃない。青年は農業や漁業、工業を実地勉強する必要がある。都市部から農村漁村へ行こう。“下放”しよう！』と大号令を掛けた。北京大・清華大・上海交通大・浙江大などのエリート大学生だろうが、皆、農場・工場などへ送られ、労働させられたのである。これが、1966年から1976年まで10年間続いた无产阶级文化大革命の当初の狙いである。

NHK テレビ中国語講座の陳淑梅講師は小学生の時、毛主席語録を読まされ、中学を卒業すると同時に機械工場に配属されるなど辛い目に遭ったと自伝エッセイ『茉莉花』に書いている。

広い館の敷地内は、三つの部門に分かれていた。

第一、歴史的文物の陳列室（先史時代のものは、同じ省内の半坡博物館にあるため西周以降、清代までのもの）

第二、西安碑林

第三、石刻芸術品の陳列室

解放以前は「碑林」が主だったが、解放後同省内で発掘された歴史的文物が数多く加えられ、それにつれて名称も「西北文物陳列館」、「西北歴史博物館」、「陝西省博物館」と変わった（現在は「西安碑林博物館」）。以前に見学した人が出した本で、この第三室のことを「専門的性格の展示で・・・」となっているし文革時代の批林批孔運動（林彪を孔子の弟子とみて共に批判した）の中での陳列の変化などをも考えると各々の時期によって、この博物館の果たした役割も大きく違ってきていると思える。初期の頃は省内で出土された物を人々に見せて、その歴史を学習させるのが主な目的であったようで、碑林や第三室は専門家以外はあまり入らなかったのではないだろうか。日本からの旅行者が自由に行けるようになってきて状況は大きく変わった。多くの書道愛好家が団体で真っ先に訪れるのは碑林であったから。今回も私自身のお目当ては、第一、第三の室だったが、最初に案内され、一番時間をかけて見学するように段取りされていたのは碑林だった。私にとって実に残念な事だったが、他の二部門の見学はほとんどつけた

し程度だった。この地方の人々のための歴史学習の場としてスタートした(?)この博物館が次第に成長してきたことは度々の改称でも明らかだが、将来を考えるならば陝西省のお役人は特に碑林ばかりをPRするのはやめたほうがよいと思う。他の展示場の充実にももっと力を入れ、「陝西省」を省き「西安博物館」となる日が来ることを期待する。どんなに大英博物館が立派であろうと、それは外国からうまく持ち出した物をいかに上手に保管し陳列しているかに過ぎないが、陝西省の場合はギリシャの国立博物館と同じく、その国で発掘されたものがその土地の人々の遺産として展示されているのだから素晴らしい。また現在は北京が最も重要な地域であるかもしれないが、明代以降のものを多く有する故宮博物館（実際に出土された場所へ返すべきものが多くあるようだ）と比べれば、周、漢、隋、唐など十二の王朝の都であった西安近辺の出土物の方がずっと貴重なものと思える。何と云っても西安の変遷は中国の歴史なのであるから。

この博物館は最初「碑林」から始まった。それは一口に言えば、公文書保管センターとも言うべき場所だ。唐の第十四代・文宗の開成二年（837年）、十三の古典が石に刻まれて国子監（唐代の国立大学）に建てられた。これが「開成石経」と言われるもので、唐代のことを書いた本には必ずと言ってよいほどに写真入りで出ている。後年、唐末の混乱期、長安の防備のために城域を縮小した際、これが城外に置かれることになってしまい、その後十分な保護を受けないままに北宋時代に至っている。1087年、この「開成石経」と玄宗皇帝の「石台孝経」は当時の文化の中心とされた孔子廟に移された。これが現在の場所で、その数も1095基あるというからすごい。「開成石経」は2.5m位もあるものが114本も並び、「石台孝経」は幅1.6m高さ5m（台座を除いた高さ）もあるのだ。コピーやマイクロフィルムなどで現代の公文書を保管する官庁の書庫を想像し比べてみればどうだろう



碑林(西安碑林博物館 HP から)

う。一方ここには各々の時代の空気にじかに触れて、表面が全体的にかどがとれているような書類（石碑）が千余りも立ち並んでいる。書類そのものが時代の生き証人として目の前に立っている。その迫力はすごい。

ところで李斯の小篆、顔真卿の楷書、王羲之の行書と言われても書道の苦手な私は各々の書体などまるで頭に浮かばない。けれども彼等が各々の時代で果たした役割の方には大いに興味がわく。無学に近かった始皇帝の知恵袋として秦の全国統一の最大の功労者であったにも拘わらず、大事な時にきっぱりと筋を通せなかった気の弱さを、卑しい宦官に付け込まれて最後には父子ともに残酷な刑に処せられる李斯の生涯。安祿山の乱の時、数少ない唐朝の力となって背後で戦った後、従兄と若い甥は無惨な殺され方をし、自身は生き延びた後に悪辣な宰相によって反乱軍のもとに送られ三年間の幽閉の後殺され

ることになる顔真卿。北魏の官僚としての王羲之やその書の収集に夢中になり過ぎて、書の持ち主をだまし（多分死に至らしめた）で自分のものとし、おまけに死後は昭陵に持ち込むことを命じていた唐の太宗の物語。碑の前にあっても書体よりもその人たちの行動のことばかりを考えていた。帰国してから書道の好きな友人たちに「お手本でしか見たことがないのに、直に見て来たなんて・・・」と、とても羨ましがられた。感激するものが人によって違うものだとつくづく思った。今考えてみても各々の石碑には、刻んだ人のおもわく、人々のうらみ、悲しみ、時としては喜びなどがそれに封じこめられていて、それらが一つの気となってそのまわりに漂っていたはずだと思う。時間が短かったからその妖気にふれられな

っただけだろう。本当にもったいないことをした。

ところでこの場所で私達は拓本を作る人たちに出会い、しばらくその作業を見ていた。それにしても拓本とはうまいことを考えたものだと思う。古代の人々も複写を必要としたのだろうか。最初にこれを

考え付いた人はほんとうにすごい。しかし、碑林の拓本を書道の方面でばかり考えるのはおかしいと思う。日本の古代史の方がより資料不足なのも、これに関わりがあるとを感じる。皇帝の詔、印、剣、鐘、貨幣、各種のますにも銘がなかったのなら、様々の絵もそれがただ紙に書かれただけのものであったなら、数千年の後にまで伝えられることもなかったであろう。古代の中国の人々が、銅、鉄、瓦、石、土と残せるものには何にでもせつせとしつこく刻んでおいてくれたおかげで、それらが後年まで残され当時の人びとの生活を知る最良の資料となったのだ。中には意図的に事実を曲げるために残



石台孝経(西安碑林博物館 HP から)

したのものもあったろうが、それさえもそれを作らせた人の心理を推測する上で良い資料となるだろう。漢字を作った人々は、それを輸入して利用しただけの人々とは違って、漢字の持つ力を最大限に利用することにも心を尽くしている。当時の（日本の）銅、鉄を扱う技術の力に大きな差があったろうが、それよりもどんなことをも記録して後世に残そうとした姿勢こそに違いが生まれたのだと思う。中国ではおよそ事件と言える程のものは必ずどこかに（直接的な記録でなくとも詩や絵画として残されている場合も）残されていることを考えると、文化とか文明と言うものにとって後世に伝えるということがどれほど重要なことなのかを思い知らされる。（続く）

3か月毎に紹介してきた「陰暦の行事」は、今回の10月～12月で終わりになります。書き進むにつれ中国は陰暦が如何に国民の生活に影響を与えているかを実感します。さて10月から年末にかけて陰暦の行事はどのような行事があるかと、色々な資料や中国人の友達に尋ねましたが10月と11月はこれと言うものが無いのです。勿論太陽暦では、色々な行事があります。例えば10月は1日の国慶節や31日は万聖夜と命名されたハロウィーン。

11月は11日の「1」の字が4つ並ぶことで近年知られるようになった「光棍節」という独身者の日。12月は何といても平安夜（クリスマス・イブ）と聖誕節（クリスマス）など西洋から来た行事も取り込んでたくさんあります。

もちろん24節気は、10月では寒露（10月8日）、霜降（10月23日）、11月では立冬（11月7日）、小雪（11月22日）が人々の意識の中にあるでしょう。以上のことより陰暦の行事の最終回は12月に絞って紹介したいと思います。

CCCCCCCCC

まず12月8日（太陽暦では今年12月30日）の腊八節を紹介します。古来から12月のことを「腊

月」と言います。「腊」とは、干し肉のことをいい、干し肉を作るのは寒くて風の強い12月が適していることから「腊月」と言われるようになったそうです。因みに腊肉を辞書で調べると、〈塩漬けした動物の干し肉、ベーコン〉と出ています。そして12月8日は、五穀豊穡を祝い春節に向けて準備をする日であり、そこから「腊八節」と呼ぶようになりました。一方中国仏教の伝承では、釈迦牟尼が苦しい厳しい断食の修業中にスジャータという女性（古代インドの女性の名で、「良い生い立ち、素性」を意味する名前）が現れ釈迦が悟りを開く直前に「乳がゆ」を差し出し、これにより釈迦は命が救われ悟りに至った、という言い伝えがあり12月8日は以降悟りを

開いた日となりました。仏教の最高の聖地とされるインド北東部にあるブッダガヤには、「スジャータ村」としてその名が残っているそうです。コーヒーを飲むときスジャータと書かれた小さなカップに入ったミルクがありますが、ここから名前をとったのでしょうか。いずれにしても8日は大切な日なのですね。

さて腊八節には「腊八粥」と呼ばれるお粥を食べる習慣があったそうです。これはスジャータが釈迦に



灶王爷 — かまどの神様（兎元素から）

差し出した「乳がゆ」由来の習慣のように私には思えますが如何でしょうか？ 中国人の友人に聞きますと、「今でもその習慣はありますよ。私の小さいころ母がよく作ってくれました」とのこと。地方によってお粥の材料は違うようですが、一般的には小豆、緑豆、粟、もち米、トウモロコシ、高粱、小麦、豌豆など8種類の穀類を入れて甘みを付けたお粥だそうです。一度食べてみたいと思われませんか？ 腊月には「腊八歌」という歌があります。人々が伝統的な春節の過ごし方を歌にしたもので、庶民の生活が伺えますね。「過年」の間この歌を歌ったのでしょうか。節回しは知りませんが、以下に一部を紹介します。次に説明する12月23日(太陽暦では、2023年1月14日)の「小年」からスタートする歌です。

♪ 哩哩啦啦二十三，

二十三糖瓜粘，(麦芽糖で作った瓜の形の食品=供え物=を作り)

二十四扫房日 (部屋を掃除し)，

二十五买豆腐 (豆腐を買って)，

二十六买斤肉 (肉も買い)，

二十七宰只鸡 (雄鶏を絞め)，

二十八把面发 (小麦粉を練って発酵させ)，

二十九蒸馒头 (マントーを蒸して作り)，

(以下略)

次に旧暦の12月23日の「小年」について紹介したいと思います。この日は家の竈をきれいにしたりお供え物をして「かまどの神様」に感謝を捧げる日です。小年の「年」ですが、資料によりますと紀元前千年頃、人々は春節を「年」と言いました。年は当時は豊作の意味でした。豊作の年は「有年」または「大有年」と言いました。つ



腊八粥(搜狐から)

いでながら民間の習慣では、春節は「過年」と言い、12月23日の小年から旧暦1月15日の「元宵節」までとじていました。小年の日から本格的な年越しが始まるのです。

ところで「かまどの神様」は、人間であった時「張生」という名前でした。生まれた家庭が裕福であったため金遣いが荒く、ついに妻に愛想をつかされ分かれてしまいそのうちに路頭に迷うことになり、物乞いをする身に落ちぶれてしまいました。ある時物乞いをしに偶然別れた妻の家に入ってしまった。張生は恥ずかしさと悔しさのあまり竈に入って自分の命を断ちました。

死んだあと天界に昇ります。天界を統べているのは、中国神話上最高位の神様の玉皇大帝です。大帝は張生に改心の機会を与え、かまどの神様として毎年旧暦12月23日に人間界に戻り、下界の様子を天界に報告する使命を与えました。以来、この日は人々はかまどの神様が人間界に戻って来る日というので果物やお菓子、料理などをお供えするようになったそうです。

以上で一月から十二月までの陰暦の行事の紹介を終わります。読者の中には詳しい方がいらっしゃると思います。率直な感想や足りない部分をご指摘いただければ幸甚に思います(筆者)。

お詫び

わんりい編集部

先にお届けした9月号で、わんりい編集部は大きなミスを犯しました。9月号から始まった平島克子さんのお話、タイトルが「『史記』の世界を訪ねて——周原から茂陵へ——」となっておりますが、これは平島さんのお考えとは違いました。編集子の間の連絡不十分で、平島さんの確認をできていなかったのです。

平島さんのタイトルは「陝西省博物館見聞記」です。10月号は「陝西省博物館見聞記(中)」として11月号に続きます。

平島さんへの失礼はもとより、読者の皆様にも多大なご迷惑をお掛けしました。以後このようなことの無いよう気を付けます。

~~~~~

## Emme (エメ) さんの記念ライブ

寺西 俊英

9月10日(土)、わんりい会友のエメさんのCD「ひらけ」発売記念ライブに行ってきました。会場は吉祥寺のカフェでした。吉祥寺は40年くらい前に三鷹市に住んでいた時に妻と出掛けた記憶はありましたが、30年も前の事。案内の駅出口を見つけるのにもウロウロ、お上りさん気分でした。

私は「ライブ」が初めてで、どんなものなのか興味津々でした。案内地図にある会場のカフェは、入口の看板も目立たず探すのに一苦労。狭い入口に入り、急な階段を下りたところが会場でした。当日は所要があり開演の13時に30分ほど遅刻をしたので、エメさんの歌が一段落した時に、薄暗い中を、仲間の隣の席に辿り着きホッとしました。

間近に舞台を見ると二十五弦の琴、ドラム、ギター、パーカッションの演奏者に加えて、ご主人の尺八名人小浜明人さんも出演されていて、迫力ある演奏が繰り広げられて行きました。西洋の楽



器と日本古来の楽器が違和感なく融合して心に響き、エメさんの歌と演奏と観客が三位一体となる様は「これがライブなのか!」と感銘を受けました。エメさんの還暦も記念したライブでしたが、エメさんの年を感じさせない歌と振り付けには圧倒されました。エメさんは〈60歳からが人生の本番だ〉と言った先輩ミュージシャンの言葉を引いて、「還暦を迎えた今、やりたいことに思う存分チャレンジしたい」と話していました。今後の活躍が大いに期待されます。ライブの終わりに、芸大時代の先輩である津軽三味線奏者の友情出演があり大いに盛り上がり、観客の熱気の中に、ライブは終わりとなりました。

## ◇満柏画伯の漢訳俳句◇

荒海や

佐渡に横とう 天の川

松尾 芭蕉

huāng hǎi làng gāo chù

荒海浪高处

zuǒ dù tiān chuān xuán

佐渡天川悬

【わんりいの催し】  
皆様のご参加を歓迎します

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体の力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術工芸室
- 日時：10月25日（火）10：00～11：30  
11月15日（火）10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ]（歌手）
- 会費：1,500円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15名（原則として）
- 申込：☎042-735-7187（鈴木）

~~~~~

*** 中国語で読む 漢詩の会 ***

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：10月30日（日）10：00～11：30
11月27日（日）10：00～11：30
- 久しぶりに植田先生のお話が伺えます！
- 講師：植田渥雄先生
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円（会場費・講師謝礼）
- 定員：20名（原則として）
- 申込：☎090-1425-0472（寺西）
Email:ukiuki65jppj@yahoo.co.jp
(有為楠)



■ 10月・11月定例会 代表宅

- ▼ 10月 7日（金）12：00～
- ▼ 11月 10日（木）13：45～

■ 'わんりい' 発送 三輪センター

- ▼ 11月号 10月31日（月）
- ▼ 12月号 未定

☆☆ 編集後記 ☆☆

最近の地球上では、あちこちで衝突が起きています。理不尽な戦争や軍事クーデターは論外としても、各地で様々な意見の相違による対立が激しくなっています。昔から意見の対立はありましたが、これほど著しくはありませんでした。今は賛成と反対が厳しく対立し、国家の姿勢がガラッと変わり、その変化が地域の分裂を招くことにもなります。

このような状況に、最近強く感じていることがあります。それは今の状況が旧約聖書に登場するお話「バベルの塔」によく似ていることです。あの時、神は人々の言語を違えて、共同作業が出来ないようにしましたが、今回の事態では、同じ言語を話す人同士が分断され、お互いが理解できなくなっているようです。事態は、「バベルの塔」よりも深刻かもしれません。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし  
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい  
10月以降の入会は、当年度会費1000円  
■ 問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりい’ 277号の主な目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 寺子屋・四字成語（56）『一字千金』    | 2  |
| 「日译诗词」（26）温庭筠『菩薩蛮』    | 3  |
| 「漢詩の会報告」（61）李商隐『夢沢』   | 5  |
| 「中原」雑感（25）「食」の思い出     | 7  |
| 中国の面白い神話伝奇物語（18）「古鏡記」 | 9  |
| 「中日辞典」からの意外な発見（12）    | 11 |
| 「東西の峻厳な二人の革命家」（4）     | 13 |
| 陝西省博物館見聞記（中）          | 15 |
| 中国・陰暦の行事（4）           | 17 |
| みんなの広場                | 19 |
| ‘わんりい’の催し・お知らせ        | 20 |